



令和4年度 校長だより

令和5年1月10日(火)

# 春日の風

No.11

文責 松下 義彦

## 新年あけましておめでとうございます

みなさん、あけましておめでとうございます。

みなさんは、年末年始をどのように過ごしましたか。3年生のみなさんは、受験という大きな目標に向かって勉強を頑張ったことだと思います。2年生や1年生のみなさんは、年末年始のゆっくりとした時間はあったでしょうか、初詣に出かけたり、里帰りしたりと忙しい冬休みだったのではないのでしょうか。中には、コロナ禍の中、家でじっとしていたという人もいるかと思っています。

さて、「一年の計は元旦にあり」といいますが、みなさんは、今年の目標を何かたてたでしょうか。目標を持つことで、自分の進むべき道が見えるようになり、迷いや不安はなくなります。また時間を有効に使うことができるようになり、だからみなさん、是非自分なりの目標を立て、それに向けて毎日をすごしてください。

新年を迎えるにあたり、少し話しをさせてもらいます。みなさんは次のような言葉を聞いたことがありますか。

「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」というものです。

その人の発する言葉をよく聞けば、その人の態度はすぐにわかるものです。

この言葉の意味は、「もし、その人が希望を語っているのなら『前向きに努力している人』であり、逆に、不満ばかり語っているのなら、その人は『自分は怠けている』と言っているようなものだ。」ということです。なぜなら、本気で努力していれば、自然と希望を口にするものだし、怠けてばかりいけば、おのずと口からは不満ばかり出てくるものだからです。よく考えてみてください……不満ばかり言いながら努力を続けることなどできるでしょうか。

私たちはつつい現状の不満ばかりに目を向けて、努力をするのを忘れる傾向があります。「希望」と「不満」、どちらに目を向けるかが大事であり、それによって怠けようとする自分に打ち勝てるかどうかが決まるのです。私たちにはつい楽な方へ流されてしまう傾向があります。そうならないために、我々は意識的に希望に目を向けていく「努力」が必要なのです。折に触れこの言葉を思い出し、今の自分はどちらを口にしてしているのか、自分自身に聞いてみてください。そしてもちろん希望を語る人でありたいと願います。みなさん、新しい年を迎え、後期後半が始まる今日の日を機に、今年は、希望を語る一年にしてみてもどうでしょうか。

話は変わりますが、ここでみなさんにお願ひがあります。みなさんもニュースで知っているとおり、ここにきて、新型コロナウイルスの感染が急激に広まっています。また、これからの季節、インフルエンザの流行も心配されます。これから先、3年生は受験や卒業式を控えています。また、2年生は修学旅行を控えています。一人が感染すると学校全体に影響することになります。このコロナ感染症はいつ、誰が感染してもおかしくない状況になっています。だから、もう一度私たち自身が危機感を持ち、しっかりと感染対策を心がけてもらいたいと思います。マスクの着用、手洗いがいの励行、手指の消毒、部屋の換気、三密の回避など初心に返って感染を防ぐ取組を徹底して行ってください。自分の命はもとより自分の周りの大切な人の命を守るための行動をお願いします。そして、今年度残りの三ヶ月を安心して学校行事や学習に打ち込めるようにみんなで頑張ってください。

最後に、3年生は、あと40日間しか中学校には登校しません。大切な40日間にしてください。1・2年生は、今の伝統ある春日中学校をさらに発展させるよう努力してほしいと思います。常にあきらめずに前向きにチャレンジする春日中生であって欲しいと願っています。

為せば成る ～「強い意志」と「あきらめない心」～

それでは、今年一年がみなさんにとって素晴らしい一年間になることを願って校長先生の挨拶とします。

